

仙台市立中野小学校

2014年 12月 8日

大西 歩実(香川大学大学院教育学研究科)
北林 雅洋(香川大学教育学部)

【文献】

(1)「子どもの命は守られたのか」数見隆生編著(2011)かもがわ出版

【場所】

海岸から約900m、七北田川から約50mの位置にある。

住所:宮城県仙台市宮城野区中野西原152

※現在は中野栄小学校を間借りして再開。

【東日本大震災による被害】

津波により校舎が全壊。



【震災当日の様子】

地震後に児童を校庭に集めて人数チェックを行った。2日前にも津波警報があり屋上へ避難を実施していたこともあり、当日も校長の指示で屋上に避難した。津波情報は給食パートの方の車のラジオで確認していた。児童の内50人ほどは引き取りに来た保護者に渡り、残りは100人ほどであった。

「津波だ。上がれ」という男性の大声があり、続々と避難してきていた地域住民も屋上に上がった。しかし、体育館内にいた人や車内にいた人もいて、逃げ遅れて亡くなった人も多かったようである。また、学校の体育館は地域の避難場所として指定されていた。

【調査して言えること】

学校の標高は約1mで、現在は校舎がないが川の水面とほぼ同じ高さに建っており、2階が川の堤防(約3m)よりやや高い位置にあったという(1)。海からは約900m離れており、また二級河川である七北田川からは50mほどしか離れておらず、地震の際に津波を警戒した避難が必要な学校である。

学校の周囲には高台が無く、高い建物もほとんどないため、学校外への避難は難しい。また、今回の津波で浸水していない、学校の標高よりもやや高い地域からは約3km近く離れている。



南から見た学校跡地(2014/11/1撮影)

※土が盛ってある場所が学校のあった場所。



学校の七北田川の位置関係(2014/11/1撮影)

※堤防の向かって左側は野草で見えにくいがり川になっている。